

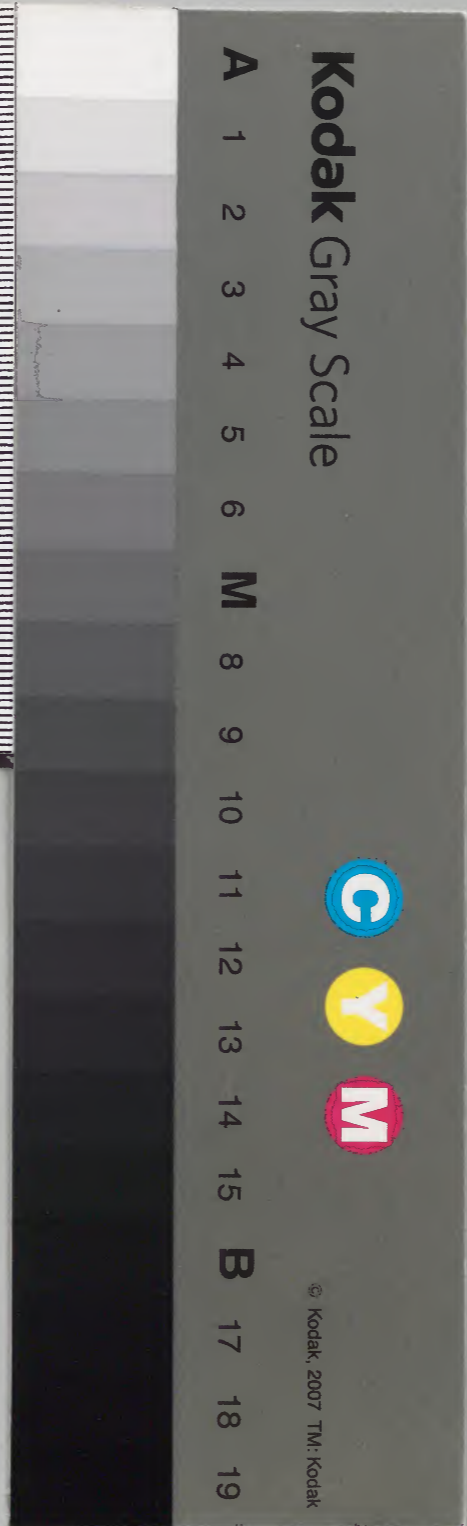
古言梯掌故

十六

和書門		類	
二五〇九二	號	九六	函
三十一	冊	架	架

內閣文庫		和書類	
二五〇九二	號	三一	冊
二〇七	函	一三	架

內閣文庫			
番號	和	25092	
冊數	31 (17)		
函號	207	249	



古言撈掌故十六

○に、部

記 十七ノ九右不飽^ア尔^カケム同世六右ソコ
モ不飽^ア尔^カト○天智紀ニ童謡云イテマ

クイハ阿羅珥茄万十七ノ世六左ソ

コニ念出ハ是ソコヲト云意ナリ○爾畧

作^レ尔^ノアカスヲアラニト云同通也

記 七ノ世四左 十ノ世一右十六ノ八右

九ノ七左十一ノ世一右八ノ五十二右

△此レモナ者ヲニトヨメリ准メレルベ

心に 十六ノ十七左△モイ 七ノ才
に 才養ルノニナリ 右△於

ナリ 於ヲ用ル下甚多コトククア
クルニイトマアラズ見ルモ右察セヨ

に 十一ノ世八右葦く刈積二人十一
左十八ノ十七右△荷也ニモ以ノ類

ナに 古事應神記和迹佐能迹迹袁波都迹
リに 者○美志波迹波迹具漚岐由惠○曾

能那 迦都迹袁△迹ハ土也集ノ弟一ノハ
弟九ノ世一不知ノカリ字白土ニ一カケ

俗ニ居ナシム居 十一ノ十七右

クロメト云へり にく 同十九同廿八

左ニクミス 又ニクカラナリニ同世五

左才ノ十四左ニク、有者七ノ四十右憎

十ノ廿四右ハノ十五左不悪十ノ十七右

△ニクムハキラノ也ニクカラ又ハキラ

ハシカ又ナリ才十一ノニクミスニクカ

ラナクニハミナ悪寒ナドノニクムナリ

然憎ナト云コトクオモクハスルヘカラ

ズ五ノ十五右同十右ニクマレト去タリ

に夢のほり

日本紀十四古倭我尼景
能褒利志△我逃昇三也

に古事記のほり

三ノ世をな一杯乃濁酒
△陶淵明詩云濁酒聊自

過又古詩濁酒一杯

十壹ノ世九
右ニヨヨカ

彈琴一曲私願足来

ニ吾共咲為而世ノ十四右切△ニヨヤカ
氏ニヨくスル也文選楚辭及寒燈字選等

東京賦莞尔

トヨメリ
にこやがき
古事紀上四年
斯夫須麻尔古

夜賀斯多尔

にこえき
十壹ノ世九右切十
四ノ七右切十六ノ

廿七右和草廿ノ十四右切才十四ハ花ツ

マトヨミ才廿ニ秋風ニナヒクドヨミ才

十ノ廿六アキハキノレナヒニアラム外

カスカタトヨリヘ十ノ廿六左水陰草ノ

ナヒクヲミシハ時ハ來ニケリ和草ナリ

にこ祢

日本紀世四ニムカツオニ夕テル
セラ之祢古祢奉曾○水ノ名カセ

ラ何ノホナルトヲレラズ○雄畧紀温矣

日本靈異記ニ柔 和名鈔云考声切韻云

毳川内及和細弱毛也○書經鬣毛ヨトヤ

ト五音 訓尔古計 七ノ世八左水手出去之十

通ス ハ 七ノ世八左水手出去之十

ツ、ナリ△コノカキヤウヲミシバイテ

イニシノ上畧ナリ世ノ世左ニモ見ユ

にし 七ノ世五右西市三ノ世五東市コ

し 七ノ世五右西市三ノ世五東市コ

角厩十五ノ世七 九ノ世四

左ニシノ御馬屋 に 允茶紀

ミユルヤウナルヲ穂ト云ナリ丹ノ色ノ

ウツリシウ目ニツク顔セト云心ニツク

ケタリ丹ト紅紅ハ白赤アヒニトハカハシト

歌ノ習ニテカリヨメリ紅顔ノ儀ナリ詩

モ同ニ只ホツコ 十四ノ世七左

リト色アルナリ 十壹ノ世七右

東細 十ノ世四十一右△夕バ庭ニ

雲ノ オフル草ナリハ、キ木ト

云草ヲ和名ト 二ノ世五右庭

同メ異ナリ 夕泉流涙七ノ

世六左ハナハタモフラス雨故庭立水十
九ノ十三左同世八左庭タツ水流滂△和
名集云唐韻云際音老和名尔八
大豆美雨水也○
馬季長笛賦云秋際漱其下趾兮冬雪掃封
于其枝ニハタツミハ俄立水ノ割也日本
紀ニハハサラミツト点セリ古事紀下水
際○毛詩ニハハサラミツト点セリ
ハ行際ト有 記云尔立水ノあさて 四ノ十八
左庭立麻
手川下十四ノ十九右九ノ世ニ左小垣内
之麻ヲ引下十六ノ八経ヲ織布ヲ日ニ黝

之朝手作ヒ△韻會麻譟加切説文云麻象
也从林从广林人所治也在屋下广庶故之
形也於其下治麻以上註マア
サテニ可也ハヤニキ家ニハ
下チカキ園ナド迄芋菜ノ類ヲウ正待也
麻ヤウノモノモ其タグヒナシバ庭ニ立
ツ氏垣内ナドヨメリ手ハ葉ノ人ノ手ヒ
口ケタラニニ似ナレハツケテ云リ見ノ
手がシハカヘテナド似タルモノニ名ヲ
得タリ今ノハツ手ト云木ノ葉モ手ヲヒ
口ゲタルニ似タリ其外紫葶嫩蕨人奉手

トアレバ名
ヅクルナリ
にをりおるりぬ
十六ノ十二
左死ム命ニ

ハカニ成ヌ。古今集ニ哀傷在原シゲハ
ル歌詞書ニカヒノ國ニアヒシリテ侍リ
ケル人トフヲハントテマカリケルミチ
ナカニテニハカニヤマヒヲシテイマク
トナリニケ
レバ云云
にをり久
世ノ世壹石〇
コシモ類句也

にをり
三ノ十六右ニハ好有シ同四
十右ニハヨクモシツケシ十

壹ノ世七左庭克浄十五ノ八右△海上ノ
日ヨリヨキヲ云日和ト今モ云リヨク亦
シツケシ亦浄ミナドアレバノトカナル
ニハキハマラシ日ヨリヨレアレ、トイ
ハニガコトシ才十九ニ舟ノ上ハ床ニマ
スコト、ヨメルニヨリテ庭ノ上ノヤウ
コキノナキ儀
欽庭ヲ用ル也
にをりかけ
日本記
十七壹
你播都等利柯督播攤俱攤梨の古事紀云
上キ
尔波津登理加祁波那久
集七ノ四

十壹左庭津鳥カケ垂尾十二ノサ九右ワ
ビテ鳴ナリ雞ノトリサヘ。イヘツトリ
トモヲメリ人家ニスメバナリ雉ハ似テ
野ニスメバノツトリキ、シトヨムニ對
シテ庭津鳥トモヨメリイヅレモ津文字
ハソヘタルナリコレイノ多下注アリ

にんあきめうまきまりかて

古事雄畧紀
十尔彼傾受

永宇受須麻理韋丘○庭雀蹲居而也源卜
久同韻ニテ通ズレハ也スバメモ人家迄

ク住モノナレバカクツバケ給ヘリコシ
モ鳥ノコトナレバ區別セズコ、ニ同註

にをふみ何まの神小祭は

サノ女ニ
左カ△駿

河國防人ノ歌也シカシ國コニ乱セリサ
テイカナル由緒トモシラズニハナカモ
アスハモ所ノ名ナルベシ小祭サシイハ
ムトアルハ花紅葉ヲ手向松ヲ植贄ヲ
奉アラシ又砂或土子一キ等ノモノモ祭
ル例ナレハ木綿櫛ニモカギラズ祭ルガ

コトシ 古事紀上又娶天智迦流美豆比
賣生子奥津日子神の次阿須波神トアヒ
トモ所ノ名ヲ負ヒ給フ神ナルベシ△に
オシクコレハ加の条ニ出タレハ其ノ註
ニハ 日本紀七古珥比磨利常陸国集十二ノ
シハ 三右新治今作路十四ノ十壹右

にひさ記尾毛 七ノ亦五右今年去新島
ノ守 亦ノ十九左今替
ニヒサ 十壹ノ二右新室 十
キモリ にひむろ 四ノ廿六左ニヒムロ

タラハツトニタ、ニメムヤハヨビゴツ
イレメトナリ 是仙覺カ説ナリ 色葉和
難集説ハマ、同意ニシテマニケレハ
コ、ニ不引 下ノサ葉ノヤノ戸オノフ
レニツナミニワケセヲヤリテ伊フ其戸
ヲ此ニフナミハ贅次歛ホニニヘクスレ
バイフニコソコトノサハリニアハヒト
テ戸ヲサレテスルニ其人ノ宿ノ留守
モ同レク戸ヲサレカタメテ忌ミツハレ
ムナルヘシホニヘナメ凡通スレハ贅嘗

ノ意ナ
ルベシ **にほりののかつま**
日本紀九古
耳倍迺利能

加豆岐〇へハホニ通フ
故ニ下はノ余ニ安ク出
にほりのの

つぎいさつま
古事雄略紀を美本抄理
能加豆岐伊岐豆岐コシ

美トホト同韻通メニホ也壬生ト云ニ同
ニ日本紀九 上ニ出 古事記此次ニア

フコノウニト云句アシバ枕詞ナカラ
落句ヲ云ムタメ也サテニ一トリハホト

五音通メニホドリナリ近江ニホ保ト云
所有 四ノ五右ニホ鳥ノ潜池水 五

ノ五左ニホトリノフタリナラビテ
十一ノ十二左ニホトリノ足 足来 十二

ノ十二右ニホトリノナツサビ来フ 十
四ノ九左ニホトリノカワシカワセ 十

五ノ十三右ニホトリノナツサビエケハ
十八ノ廿六左 廿ノ四十九右ニホトリ

ノオキナカバハ〇ニホノ海ト云ハコハ
ニ出テタリ神功皇后紀ニ有リ〇カソク

フタリナラヒ居足沾ナツサヒ二人ナラ
ヒ井ニオフジ皆ニホトリノ體ヲエシニ
ヨメリカツシカワセハカワクノ例縁ニ
ツミケリ本キツギハカワキ上リテアハ
ナドノゴトク水庭ニテタメタル息ヲツ
ク意ニヨメリオキナク川ハ同息甚ノ意
ニツケケタリ 和名集云郭璞云方言注
ニ磯鷓辟白ニ音野鳧和名迹保而好没水中者也
にるセルハス妹セル一ノ十四右蒸草ノニホヘル
妹 十ノ廿三左カキツバタ

丹頰類 令妹 十四ノ十五右ニホフ見ユ
エニ 一ノ亦五右ニホフ襟原入乱衣ニ
ニホフ也 七ノ廿右紅ニホフモ、シキ
ノ大宮人 曰廿五右紅ニ衣染ニホヒ著
テニホハバヤ 十一ノ四十七右紅ノコ
染ノキヌニホヒテム 十六ノ八右真襟
モテ 八ノ四十四右ニホシ、キヌニ
同十右襟トフレド 亦ニホヒテヲラ
ム亦ニホヒヨリナム已 艶ノ心也 同
廿八右紅ニ染テシ衣是ハウツロフトテ

先ツニホフナリハナク九令艶色 同廿
六ヲモナフシ艶ヘルハ八ノ世五右
又ヘクモサケルハギ 十五ノ十八右櫻
ノ花ノユホハシモ 十九ノ廿六左花ノ
云ニホヒツケテ 十ノ四十三左詠黄葉
霜露ニニホヒ始 同四十四左 同五十
八右寄衣秋ツ葉ニニホヘル衣 十六ノ
十三右山フキノニホヘル妹 十七ノ四
十八右ツ、シハナニホヘル 八ノ四十
五左紅ニニホヘル山ノ落マクヲシモ

同四十四右令丹黄葉 九ノ十右白ツ
ハシ吾ニニホハテ 十七ノ廿二左ウノ
花ノニホヘル山 赤色モ無香七モニ
ホヘル 四ノ十四右朝日影ニホヘル山
一ノ廿七左岸ノ垣フニニホハサマシ
ヲ 六ノ十五左 九ノ廿二右磯ノウラ
マノマナコニモニホヘテユカナ 七ノハ
十七左白榜ニホフ信五ノ山 十九ノ廿
六ノ十右ニホフテヲラム 亦同ハニホ
フヨリナム 十ノ廿五右ハキノニホフ

ラム△艶 遊仙窟ニスヘテ坎字ヲ用
七訓シテワカヘリニホヌヲラムニホヒ
ヨリナムエシモナド云ヘバ通ズルナリ
ウツリエイジノ意ナリニホフト云詞云
紅ヨリ出テ後ハサマクニワタルナルヘ
シ
によきるるぶあさる
十六ノ七左
丹因子等何
四子庭随意 △以合タル子等ナリオ五
ノ九ニヨチコラトキタツサハリテトヨ
メルヲ思ヒ今スシバ次ノ勺ト引合テニ

ヨレルヨチコラトヨムヘ
キ歎庭ハ衍文ナルベシ
にらし
十ノ十一煮ラシモフケリ迄ユノ
ウハキツモテハ 十六ノ七季春之月登
丘遠望忽值煮美之カ箇女子也

ほろろ
セノ世三左君ニニルリサ
浅芽 十九リホ三右妹ニ

ニルクサ△ハニルハオ十一ノ四十一
左山フキノニホヘル妹カト云心ナルベ
シ○其外集中古ル知甚多カラザルナリ

江色

十六ノ世ニ右モムニシヲ五百
牧ハキ垂△搓榆也亦武ト裳

五音通ズレハ百榆字〇和名集ニ尔雅注

云榆之皮色白名粉上音度下者粉〇延喜

式云和名夜仁礼内膳式云榆皮一千牧别長一尺五寸廣四寸

搗得粉二石二牧右榆皮年中雜御茶在二

美等ノ料コシラハ天子ノ供御ニ用

夕リ今世ハ山家ノ者哥ニヨメルヤウニ

ハダキ粉トメ團子ニテ食スルナリ或榆

餅トテツキテモナヒトメモクフナリ

モムハ百ト多キ心搓ハ
ツキモニテ粉トスル心



明治十年
增求

